

## ■ 会員便り

### (株)電通パブリックリレーションズ 大日方 邦子社員が バンクーバーパラリンピック・アルペンスキー競技で2個の銅メダルを獲得

3月21日（日本時間22日）、バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会が閉幕しましたが、パラリンピック冬季大会としては、日本は史上最多となる計11個のメダルを獲得し、大躍進を果たしています。

(株)電通パブリックリレーションズでは、平成19年に入社した大日方 邦子社員がパラリンピックに出場し、アルペンスキー競技（シッティング）で2個の銅メダルを獲得することができました。

報道においては、練習風景、結団式・壮行会、成田空港での出発報道、競技結果、メダル授与式など大日方社員は多く取り上げられ、勤務先である電通PRの名もたびたび紹介されることになりました。

しかし、パラリンピック開催中は、選手の勤務先といえどもIPC・JPCのオフィシャルパートナーではない当社は、規定の範囲内で広報活動を行わなければなりません。たとえばウェブサイトでは、当社はニュースメディアではないため、写真や選手のコメント、戦評など報道に近い情報を掲載することはできません。結果のみを簡潔にお知らせする形となりました。本人のブログにおいては、ガイドラインが定められており個人的な日記という範囲で、レース結果以外のコメントなどが許されており、競技、トレーニングの合間を使って心境などを書くことができました。

当社が規定の中で行った広報活動としては、当社の社屋壁面に「電通パブリックリレーションズ 大日方邦子 バンクーバーパラリンピック出場」という応援メッセージを掲げたことが挙げられます。長さ17m縦1mの巨大な横断幕は築地警察署、中央区役所に面し、多くの方の目にとまったことと思います。



実はこのベタな横断幕（実際に糊づけ）の設置には、多くの関係者のご理解とご協力により実現した背景があります。一つは、ビル管理会社からご承諾をいただくことが必要となります。また、中央区

には横断幕、懸垂幕を設置する際には路面からの高さや面積規定があり、首都高速に面した壁面には強風に耐え得る強度が求められ、許諾も必要となります。また、メッセージ内容、デザインでは、銀座のイメージを損なうことのないよう銀座デザイン協議会の厳しいチェックを受けることが必要となります。

さらに、設置には工事日、時間が重要となってきます。天候は晴れ（乾燥した天候）、道路に歩行者がいないことなどの条件をクリアすることが求められます。結果的に作業は数日後の天気予報を確認し、深夜0時から明け方4時に終了目標として作業にはいりました。作業員と社員は安全を確認しつつ深夜業務を行い、社員が出勤する時間には無事設置が完了いたしました。

横断幕設置規定を順守し3月末に撤去いたしました。結果的にさまざまな報道とともに地域社会の皆さま、社員そして大日方社員に大きな刺激を与えるコミュニケーションツールになったと思います。

当社としては今後も、障害者スポーツの振興に協力をしていきたいと考えています。

(株)電通パブリックリレーションズ 経営推進局 総務広報部

## 協会会員(正会員B) 清水 正道氏(淑徳大学 教授)が 「環境コミュニケーション - 2050年に向けた企業のサステナコム戦略」 を発刊

環境経営とともに登場した環境コミュニケーション活動は、一般に、環境報告書やCSRレポート等での環境関連の「情報開示活動」あるいは環境配慮商品の「広報活動」と捉えられているようです。無論、そうした側面もありますが、今日、企業の取り組みはさらに先行しようとしています。政府環境政策に先行する温暖化ガス排出削減や生物多様性確保への取り組み、世界各国でのステークホルダーとの対話、環境ウェブサイトの充実・オープン化によるNPO/NGOとの連携模索など、先進企業の創意工夫に満ちたコミュニケーション活動は、従来からの環境コミュニケーション概念を超えつつあると言えるでしょう。

本書ではその構図を「戦略的な環境コミュニケーション施策」(第1章、p55)として整理し、企業を主体とした環境コミュニケーション活動を、コーポレート・コミュニケーション活動として発展させることが、単に社会性の高い企業活動を支えるだけでなく、持続可能な社会形成の要になるとの視点を打ち出しています。

さらに本書第5章では、持続可能な社会形成に向けて、ステークホルダーとの対話や相互理解獲得戦略を引き継ぐ企業戦略として、グローバル企業間のアライアンスを基盤とした「サステナコム戦略」を推進することの意義を問いかけます。

本書は、2008年に刊行した『CC戦略の理論と実践』(同友館刊)での著者の主張を発展させるものですが、読者の方々にわかりやすく説明できているか?と問われれば、力及ばずの部分が少なからずあるでしょう。皆さま方からの忌憚のないご指摘をいただきたいと念願しております。

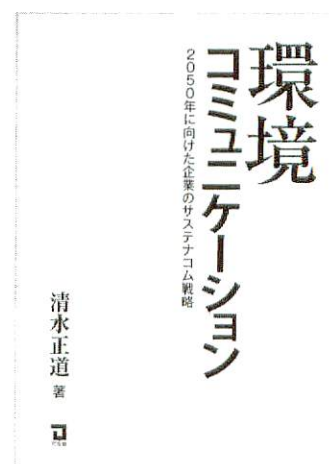
### <書籍データ>

『環境コミュニケーション-2050年に向けた企業のサステナコム戦略』

著者：清水 正道

発行所：同友館（4月1日発刊）

定 価：2,400円（税別）



(淑徳大学 清水 正道)